



時間があつたので、秋田の男鹿半島に行きました。山形から車で4～5時間かかりますが、秋田市に行くよりも近く感じました。(なぜ?)

男鹿半島といえば、今から7年前のこと、僕が協力隊に応募しようとした時に、募集している地域が男鹿か?川西か?しかなかったのが究極の選択を迫られていたことを思い出しました(笑)

もし、男鹿に行っていたら実家に帰っていたかもしれません。それは、男鹿という場所は「完全なる観光地」だったからです。もはや、外の人々の力は借りなくとも活気があります。

というと、観光資源や歴史があるからかと思われがちですが、今回、男鹿の観光地をめぐる感じたのは、地元の人々の努力でした。なまはげの歴史は詳しくわからないほど古く、室町時代あたりには研究者がいたほど謎めいているのに、みな知っているという脅威の歴史を誇ります。なまはげ館では、歴史のビデオを見たり、体験コーナーの話聞いてみたら「なまはげは子どもばかりを襲うわけではない」と説明する人がいたり、ホントか!!と突っ込みを入れたくなる場面もありますが、みなそれぞれの理解を持っているようです。

地元の文化を愛するとは言いませんが、興味を持って受け入れるというのは大事なことだと思いました。それが、その土地で生まれ育った文化を継承するということだと感じます。

上の写真は、なまはげ行事を体感できるイベントで、おもしろいのは地元女子が友達と体感していることです(笑)地元女子だと思ったのは、地元高校の部活話をしていたからです。「きゃー」とか言いながら写真撮るかと思いきや、隣の子どもが「夏休みの宿題をちゃんとしろ」「おかあちゃんの言うことをちゃんと聞け」と言われていて、結局、子どもがターゲットになるじゃん(笑)と思いました。

なまはげの文化は奥が深すぎておもしろいです。個人的には郷土文化・風習は、その地域のルール作りと、道徳教育、価値観の形成に関わっているはずだと思うのですが、どうでしょうか?

8/11(土)は19:30から川西夏まつりのラジオ中継をします。こういう地元の放送に地元がどれだけ関れるかが、その地域の文化形成の第一歩な気がします。誰もが関わるのではなく、誰かが関わることで、いつのまにか地域が関わることになる。そんな、ささいな事の積み重ねかもしれません。だから、それぞれ違った理解が存在するのでしょう。なまはげも皆知っているのに、歴史は判明してないんですから。